

	コード	名 称	区分	コード	名 称	
事業名	700	街なみ環境整備事業(整備事業)	会計	01	一般会計	
			款	08	土木費	
			項	04	都市計画費	
基本 施策	27	秩序の中にもにぎわいのある都市空間をつくる	目	02	市街地整備推進費	
			細目	371	市街地整備推進事業	
行革大綱の重点事項番号			細目	52	街なみ環境整備事業	
担当部課	コード	310100	担当者 氏 名	藤森 大輔	連絡先	22 - 9825
	名 称	中心市街地活性化推進室				(内線) 2826

事務事業の概要(Plan)

対象(誰を、何を)	中心市街地区域内	※対象件数
成果(どうする)	居住人口増と観光客の誘致により、中心市街地の賑わいを創出する。	
根拠法令・要綱等	伊賀市中心市街地活性化基本計画	
開始年度	平成 13 年度	関連事業
終了年度	平成 29 年度	市街地再開発事業、中心市街地活性化のための各種推進事業
H22 事業 内 容	市道三之町線設計業務 市道農人町八幡町線道路美装工事業 市道中町新長田橋線道路美装工事業 忍町交流センター用地取得に伴う用地測量業務 忍町交流センター用地取得 旧ふたば幼稚園園除却工事に伴う実施設計業務 旧ふたば幼稚園園除却工事	
社会情勢 の変化等	平成21年度から道路美装化を実施し、目に見えた形で整備が進むことにより事業への関心も高まっている。 広場整備については平成23年度中に完成し、地域住民による管理体制を引き続きワークショップで検討する。 生活環境施設整備事業として武家屋敷赤井邸の利活用を検討し、基本設計を実施する。	

整備内容(「施設の建設」「整備事業」のみ記入)			運営体制(「施設の建設」「施設の管理・運営」のみ記入)		
1 建設用地	うえのまち地区 233ha (上野中町ほか33町)		1 運営主体		
2 建設面積 (延床面積)	道路美装化 26,905㎡ 広場整備 4ヶ所 4,840㎡		委託先		
3 規模・構造			2 配置人員		人
4 総事業費	1,651,576	千円	3 年間運営費		千円
			4 市内の 類似施設		

事務事業実施にかかる業績とコスト(Do)

活動 指標	指標名	単位	実績値		目標値	
			H21	H22	H23	H24
			目標 6.3 実績 6.3	目標 19.95 実績 19.95	27.75	35.31
			目標 実績	目標 実績		

成果 指標	指標名	指標設定の考え方	単位	実績値		目標値	
				H21	H22	H23	H24
				目標 4956 実績 2462	目標 3817 実績 2835	4043	4270
				目標 6.3 実績 6.3	目標 19.95 実績 19.95	27.75	35.31

投入 コスト			H21 決算	H22 決算	H23 当初予算	H24 当初要求
	直接事業費計 (A)		(千円)	(千円)	(千円)	(千円)
	A の 財 源 内 訳	国庫支出金	84,726	190,227	115,672	162,214
		県支出金	42,257	96,271	49,477	67,050
		地方債	40,100	89,400	64,600	90,418
		その他				
		一般財源	2,369	4,556	1,595	4,746
	事業投入人件費 (B)		2.0 人 14,400	2.0 人 14,400	2.0 人 14,400	2.0 人 14,400
	フルコスト(A)+(B)		99,126	204,827	130,072	176,614

事務事業の評価(Check)

判断の基準(該当項目に○をつけてください)			備考欄(特記事項)
必 要 性	法律(条例は除く)で実施が義務付けられている事業		市街地の回遊性を高める道路美装化事業並びに広場整備事業は、中活基本計画における主要事業に位置づけられていることから活性化のための必要性は高い。 また、住民が城下町伊賀上野に対する誇りと愛着を持ち続けてもらうためには、歴史的な武家屋敷を活用した地域交流センターやふたば幼稚園跡地の公園を整備する際に、住民がワークショップを重ね、活用方法や運営方法などを検討することは今後の活発な利用の促進が期待される。
	個人の方だけでは対処し得ない社会的・経済的弱者を対象に、生活の安定を支援し、あるいは生活の安全網(セーフティネット)を整備する事業		
	特定の市民や団体を対象としたサービスであるが、サービスの提供を通じて対象者以外の第三者にも利益が及ぶ事業		
	事業開始からの目標・目的を概ね達成している事業		
	市民にとっての必要性は高いが、多額の投資が必要、あるいは事業リスクや不確実性が存在するため、民間だけではその全てを負担しきれず、これを補完する事業		
	市民が社会生活を営むうえで必要な生活環境水準の確保を目的とした事業		
	国や県、民間が同様のサービスを提供している事業		
	市民の生命、財産、権利を擁護し、あるいは市民の不安を解消するために必要な規制、監視、指導、情報提供、相談等を目的とした事業		
	民間のサービスだけでは市域全体に望ましい質・量のサービスが確保できず、これを補完・先導する事業	○	
	受益の範囲が不特定多数の市民に及び、サービス対価の徴収ができない事業	○	
有 効 性	事業の対象や環境の変化により、事業ニーズが薄れていない事業		道路美装化により歩きやすい道路を整備し、中心市街地各地点に拠点となる施設や公園を整備することで回遊性の向上が図れる。
	【○をつけた場合、ニーズの具体的内容、根拠となるデータ等判断理由】		
	城下町の歴史的な街なみを保全することは中心市街地活性化にとって重要な要件であり、道路美装化事業は必要な事業である。」	○	
	財政状況を考慮し、事業を休止した場合は、市民生活への影響が大きい事業	○	
	【○をつけた場合、影響の内容及び判断理由】		
	市の重点施策である中心市街地活性化事業の基盤事業であることから、休止は理解が得られない。	○	
	事務事業の継続、達成度や実績を高めることで成果指標の向上が期待できる。	○	
	基本施策の目的を実現するために現在の事務事業の内容は適切であり、基本施策に対して貢献度も高い	○	
	サービス水準や対象を見直す余地がある。	○	
	当初設定した計画を	80%以上100%未満	
達 成 度	予算の繰越の有無	無	【計画に遅れが生じている場合、改善策】
	【予算の繰越がある場合、繰越の種類】		
	他の事業主体の活用、事業移管が可能である。		
	基本施策の中で類似・重複する事務事業がある。		
	【事業名】		
	受益者負担を求めることができる事業である。		
	全体コストにおける負担構成は適正である。	○	
	コストに見合った効果となっていない。効果を絞り込むことでコストを削減する余地がある。		
効 率 性	本年度中に地権者の意向確認を行うとともに、地域における広場等の必要性について調整を行う。		市街地の道路については老朽化が著しいため、舗装や側溝の改修は必要であったが、当事業により実施できるため効率は高い。 また、水道の老朽管更新と時期を調整し、舗装復旧等について無駄のないように実施している。
	また、地域交流センターの基本方針などについて住民参加型のワークショップで検討を行いたい。		
	【状況】	計画のとおり進んでいる	
	【詳細】		
	昨年度の取組状況		
	広場整備については地域住民主体でワークショップを重ね、ふたば幼稚園跡地については実施設計が完了、武家屋敷を活用した地域交流センターについては検討準備会を設置した。		

昨年度の評価結果に基づく改善策への取り組み状況

改善策	本年度中に地権者の意向確認を行うとともに、地域における広場等の必要性について調整を行う。 また、地域交流センターの基本方針などについて住民参加型のワークショップで検討を行いたい。
昨年度の取組状況	【状況】 計画のとおり進んでいる 【詳細】 広場整備については地域住民主体でワークショップを重ね、ふたば幼稚園跡地については実施設計が完了、武家屋敷を活用した地域交流センターについては検討準備会を設置した。

今後の方向性(Action)

担当課長氏名	東 弘久
事業の方向性	【方向性】 拡大・充実
	【理由】 中心市街地活性化基本計画の認定期間が平成25年3月までと迫っているなかで、回遊性の高いまちづくりに向けて事業展開のスピードを上げる必要がある。このためには駅前再開発事業だけでなく、城下町伊賀上野の景観保全、街なみ整備も市街地活性化のために必要であることから、当事業による整備を進めていく。 また、密集市街地における生活環境改善のため広場等の整備も急務であることから、住民との協働による広場等の整備を行っていく。
	現時点における課題、その他 広場及びポケットパークの用地確保ができていない箇所があり、事業展開が遅れている。
課題、その他に対する改善策 (いつまでに、何を、どうする)	用地の確保については、中活基本計画の認定期間中(平成25年3月まで)をめどに地権者の意向調査、地域における広場等の必要性について調整を行う。 また、公園等の整備、管理運営については他の市街地公園のモデル的な取り組みでもあるため、ワークショップ等で十分検討を重ねたい。